

STONE SOUP

Mishima-Kita High School SGH Newsletter

October 17, 2014 No. 1

新たな地平に向けて

校長・鈴木三喜

三島北高校では、SGH をとおして育成すべき資質能力を2段階で考えています。第1段階は、論理的思考力の育成です。根拠を明確にして堅実に論理を進めていく能力です。情緒を大切にしながら自分の意見をしっかりと持つ。生徒諸君には大いに考えてもらいます。第2段階は、自分の考えを的確に伝える、そして、相手の考えを正確に理解できる能力の育成です。楽しい会話は大切。時には、がっつりと議論ができる、そんな能力がグローバル社会では必須となるでしょう。

でも、かったるいことはありません。自分の隣にいる仲間を大切にすること、その隣が学校内から日本国内、そして地球の上から地球の隣となっていくだけです。たのしみましょう。■

What is STONE SOUP?

SGH 担当教諭・平井剛

飢えた旅人が民家に食事を求めて立ち寄り、煮るとスープができる不思議な石を持っている、鍋と水だけでも貸してほしいと言ってそれらを借りて作り始め、おいしくするには塩、さらに小麦や野菜や肉もほしいと言って持ってきてもらい、できたスープは見事な味になった。この外国の民話のようにSGHを具沢山の美味しいスープのようにしていきましょう。■



NEWater Visitor Centre で下水処理水を高度浄化した NEWater のペットボトルを手に記念撮影

海外研修に行ってきました

本年度の「SGH 海外研修」は8月25日(月)から29日(金)にシンガポールで実施されました。この研修の目的は、「水問題」についての課題研究を主体的に行い、今後の本校のSGH 課題研究でリーダーシップを発揮できるようにすることです。具体的な目標は、(1) 世界の水問題について理解を深めることができる、(2) 自分が生活している地域の水問題について調べ英語でプレゼンテーションすることができる、(3) シンガポールの水問題についての知識を身に付け、現地でフィールドワークすることができる — の3点です。これらによって「社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力」をもつグローバルリーダーの育成を図っています。

参加した12人の国際交流室のメンバーは、水問題専門家の橋本淳司氏の御指導による事前研修で「世界の水問題」についての自分の考えを拡大・深化させてきました。そして現地で静岡県や日本水フォーラムなどの協力を得て、世界最先端の水研究を行っている「WaterHub」、貯水池施設「Marina Barrage」、シンガポール国立大学の研究所「Van Kleef Aquatic Science Centre」、下水を処理し再生する「NEWater Visitor Centre」を見学し英語で説明を受けました。現地の高校である「River Valley High School」ではお互いの発表を含め貴重な交流の時間をもちました。この報告については事後研修後、まずは10月15日(水)の1年生の総合的な学習の時間で行いました。■

SGH の目的や上記の海外研修、および、その他の詳細につきましては、次号で報告いたします。(SGH 海外交流アドバイザー・望月良憲)

1. 平成 26 年度 第 1 回静岡県立三島北高等学校 スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH) 推進会議を開催

6 月 17 日、本校で第 1 回 SGH 推進会議を開催しました。同会議は、事業の企画・評価・助言等を行う専門家による有識者会議です。会議では、本校から事業計画を説明した上で、将来の見通しについて熱心な議論が交わされました。

2. 海外研修事前学習会を実施

シンガポールでの海外研修に参加する本校生徒 12 人の事前学習会が 7 月下旬より、複数回にわたり行われました。同学習会では、SGH 推進会議委員で水問題専門家の橋本淳司氏のファシリテーションの下、水にかかわるワークショップを実施しました。



●私の知らなかった世界の水問題について話を聞くことができるとも勉強になりました。また、産業社会でどのように水質汚染されるかを学び、清潔な水のありがたさを知ることができました。(21HR・室伏真帆)

3. 米国ルイス&クラーク (L&C) 大学の教員・学生 15 人が本校を訪問

富士山の地質・生態等を調査するために来日中の L&C 大学からの訪問団が 8 月 18 日、来校しました。海外研修に参加する本校生徒は水に関するプレゼンテーションを英語で行い、その後、訪問団とともに源兵衛川で清掃活動を体験しました。

4. 東レ三島工場の水処理施設を見学

海外研修に参加する本校生徒は 8 月 21 日午前、事前学習の一環として東レ三島工場を訪問しました。同工場では地域の水環境を守るため、工場の排水を浄化した上で、地域の川に流しています。SGH 推進会議委員の松田竜明環境保安課長から水資源保全活動などについて説明を受けた後、水処理施設を実際に見学させていただきました。

●東レ三島工場見学では、水の水処理施設を見学しました。周りの環境に配慮し、いったん使用した水をきれいにして川に返していました。極限までつきつめた水処理に対する東レ三島工場の本気度をひしひしと感じました。(13HR・鈴木聖生)

5. 立教大学経営学部 (池袋キャンパス) で模擬授業を体験

本校生徒 65 人と教員 15 人は 8 月 21 日午後、立教大学経営学部を訪れ、日向野幹也教授の指導の下、「ビジネス・リーダーシップ・プログラム (BLP)」の模擬授業を体験しました。BLP は「アクティブラーニング」の手法による「リーダーシップ」の育成を目指した立教大独自のプログラムです。学生 6 人がファシリテーターを務めた模擬授業では、最初は緊張気味だった本校生徒も、次第に笑顔がこぼれ、積極的に発言するようになりました。



●今回の研修は、アクティブラーニングという内容でした。私にとっては、人間関係について考える貴重な機会となりました。BLP で学んだことは、これからの学校生活のなかでの貴重な知識になると思います。(22HR・飯田年希)

●私は模擬授業で聞き手のリーダーシップを学びました。多くの方は、チームの中心で発言する人にリーダーシップがあると思っていますが、今回の授業で、相手の話を聞くこともリーダーシップであることに気づけました。(37HR・池谷実悠)

6. 国際交流室メンバーが静岡県英語ディベート学習会に参加

本校英語ディベート・チームの生徒 3 人が 8 月 26 日、静岡県総合教育センター (掛川市) で開催された学習会に参加しました。今年度の論題は「日本政府は原発を廃止すべきである。是か非か」です。県内 8 校 59 人の生徒とともに実戦形式の英語ディベートに挑戦しました。



●さまざまな学校の生徒とディベートをしたことで、あらためてその難しさや協力することの大切さを学びました。今後も、全国大会を目標によりいっそう練習に励んでいきたいと思っています。(24HR・田京茉実)